

青梅市文化財ニュース

第462号

令和8年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

—古文書に見られる猪と鹿—

近年、各地に猪や鹿による農作物や草木、花への食害があり、チューリップの球根を鹿に食い荒らされてしまい、イベントが中止になったという報道も目にしました。猪が市街地に出没して、人が襲われる被害も出ています。

猪や鹿の食害は今に始まったことではなく、300年以上前の江戸時代から人々は農作物を食い荒らされる被害に苦しんでいました。

江戸時代の猪と鹿による被害と当時の農民の苦勞について記載されている古文書をご紹介します。

江戸時代、市内西部から奥多摩町にかけての村々では、漆を栽培し、年貢として上納していました。宝永三（1706）年八月、市内旧駒木野村から上流の旧小河内村までの多摩川沿岸の二十二ヵ村から奉行所へ差出した年貢減免嘆願書があります。

その中に「近年**猪鹿**大分発向仕、山合之畑者不及申上、家続迄夜々罷出諸作を荒シ、其上漆楮一圓ニ喰荒シ何共難儀仕候、先年者谷々之漆畑ニ而漆木第一ニ伐出シ、御上納仕候得共、一切喰枯シ漆楮者不及申上、山畑者無是非荒シ迷惑ニ奉存、御代官様迄度々御訴詔申上候御事」という記述があります。「近頃猪と鹿が多く出てきて山間の畑だけではなく、家の近くの畑まで出て作物を食い荒らしている。漆や楮の木も食い荒らされてしまい、年貢を上納することがむずかしい」という内容です。各村の名主の連名で何とか減免してくれるようお願いしています。この古文書の裏書には「右御願達而申上候得者、御聞召被分酉戌兩年共ニ五分一宛御引被下難有奉存候」と書かれていて、願いが聞き届けられ、年貢の五分の一は減免されたようです。

しかし、年貢の減免を願う村の古文書には「猪鹿多く発向し」と書かれている物が多く、この文言は、これを書いておけば年貢を引いてくれるという常套句であるとも云われています。

農民の猪・鹿対策は「しし垣」と呼ばれる石垣や鉄砲によるおどし、捕獲でした。村には代官所から拝借した鉄砲が何挺かありました。普段農民は鉄砲を所持することは許されておらず、證文をもらい受けた名主が厳重に管理していました。

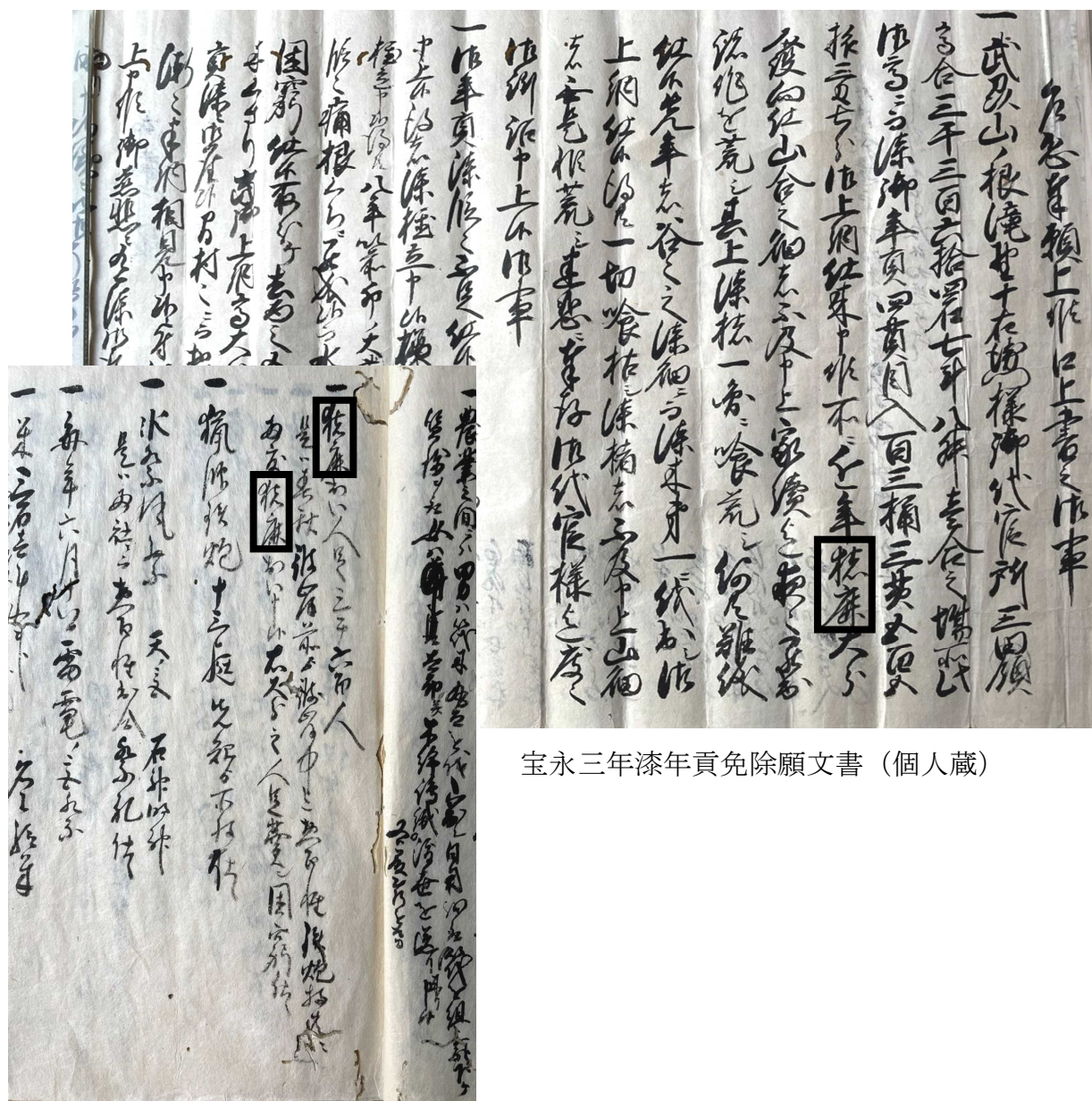
延享四（1747）年に市内旧二俣尾村が幕府に提出した、村の概要を記した「武蔵國多摩郡三田領二俣尾村差出帳」には「一、**猪鹿**おい人足三千六百人 是ハ春秋彼岸前々彼岸中迄惣百性鉄砲持共ニ兩度**猪鹿**おい申候、右大分之人足費シ困窮仕候 一、獵師鉄砲十三挺

先規方所持仕候」と書かれています。これは、猪と鹿を追う人足として延べ3,600人が動員されたということで、秋と春のお彼岸の頃に村人総出で狩猟をしていたことがわかります。村には鉄砲が13挺ありました。猪や鹿を駆除するにはお金も人出も掛かりました。

捕獲された猪や鹿の処分方法は不明ですが、旧二俣尾村には享保四（1719）年に書かれた「猪鹿塩漬之覚」という古文書が残されています。これは、当時朝鮮国からの使節団が来朝すると、その^{まかないよう}賄用として猪鹿の肉が必要となり、幕府から青梅地方の山村へ供出命令が出され、それに対応した文書です。さまざまな指示が出されて、村人が困り果てたと書かれています。

これらの古文書からは、電気柵も防獣ネットもない時代に、農作物を猪や鹿から守り、年貢を納めてきた江戸時代の人々の苦労と、なんとか年貢を減らしたいというしたたかさがわかります。

（文責 小島みどり）



宝永三年漆年貢免除願文書（個人蔵）

延享四年二俣尾村差出帳（個人蔵）